

分野						開講時期		単位(時間)	
専門基礎分野						1 年次 前期		1 単位 30 時間	
科目名						科目種類		担当教員	
解剖生理学 I						講義		外部講師	
授業の目的および概要									
医療行為は、人体への様々な介入が含まれます。人体の構造と機能についての正確な理解がなければ、その医療行為そのものが、悪害をもたらすことになりかねません。人体の構造と機能は、看護においても看護実践における日常生活援助を考える際の土台となり、看護行為における科学的根拠を理解するための手助けとなります。 ここでは、人間の身体の構造要素がどのようになっているか、またその構成要素がどのように作られてくるのかを理解します。そして、生命を維持するためのそれぞれの器官についてその位置関係や形状、内部構造、人体における役割について学ぶことを目的としています。									
到達目標									
1. 人体の区分と各部位の名称が列記できる 2. 人体の最小単位である細胞の行動と機能が述べられる 3. 各臓器の構造が述べられる									
この授業が目的としている DP や関連する科目									
DP との関連性						関連する科目			
①	②	③	④	⑤	⑥	解剖生理学Ⅱ、看護形態機能学Ⅰ・Ⅱ、共通看護技術、食事・排泄援助技術、活動・休息援助技術			
◎		◎							
教科書・参考図書									
専門基礎分野 人体の構造と機能【1】 解剖生理学 医学書院									
授業計画	授業内容					担当/ 講義方法	授業外学習		
	主題(単元)	内容							
第1回	授業ガイダンス 人体の基本構造	• 授業の概要と目標、授業の進め方について説明、担当講師や評価について説明 • 人体の体位と区分				専任教員 外部講師	事前：シラバスの内容を事前に確認する		
第2回	人体の基本単位	• 人の成り立ち • 細胞 ▶細胞の構造、遺伝と遺伝情報、細胞の代謝と機能 • 組織 ▶上皮組織、支持組織、筋組織、神経組織 • 器官 ▶層構造・実質性・体腔の器官				外部講師	事前：教科書の該当する範囲を読む 事後：ワークブックで復習する		
第3回	体液	• 体液の調整、酸塩基平衡の調節、体液の恒常性維持機能、体液平衡の異常				外部講師	事前：教科書の該当する範囲を読む 事後：ワークブックで復習する		
第4回	血液	• 血液の細胞成分と造血、血液の機能と物理化学的特性、赤血球の機能、白血球の機能、止血と血液凝固、血液型と輸血				外部講師	事前：教科書の該当する範囲を読む 事後：ワークブックで復習する		
第5回	循環器の構造と機能	• 心臓と血管の構造と機能				外部講師	事前：教科書の該当する範囲を読む 事後：ワークブックで復習する		
第6回	循環器系	• 肺循環 ▶肺循環の特徴、肺動脈、肺静脈 • 体循環 ▶動脈系、静脈系 • 特殊な領域の循環 ▶冠循環の特徴、脳循環の特徴、皮膚循環の特徴、門脈系、側副循環				外部講師	事前：教科書の該当する範囲を読む 事後：ワークブックで復習する		

第7回	リンパ系	- リンパ系の構造 - リンパ管の構造と機能 ▶リンパ液、リンパ節、扁桃、脾臓、胸腺	外部講師	事前：教科書の該当する範囲を読む 事後：ワークブックで復習する
第8回	呼吸のしくみ	- 呼吸器の構造 ▶上気道、喉頭、気管と気管支、肺、胸膜と縦隔、呼吸筋 - 呼吸器の機能 ▶肺における換気機能、肺でのガス交換と血液中のガス輸送、呼吸の調節、正常呼吸と異常呼吸	外部講師	事前：教科書の該当する範囲を読む 事後：ワークブックで復習する
第9回	恒常性維持のしくみ①	- 非特異性生体防御機構 ▶外来性異物から生体防御機能、上皮のバリア機構、食細胞と事前免疫、サイトカイン - 特異的生体防御機構 ▶獲得免疫に重要な物質・細胞・器官、細胞性免疫と体液性免疫、アレルギー反応	外部講師	事前：教科書の該当する範囲を読む 事後：ワークブックで復習する
第10回	恒常性維持のしくみ②	- 体温 ▶体温とは、体温の調節 - からだのリズム性変化と睡眠 ▶生体の恒常性維持機構、概日リズムと体内時計、睡眠と覚醒	外部講師	事前：教科書の該当する範囲を読む 事後：ワークブックで復習する
第11回	内部環境維持・調節のしくみ	- 自律神経 ▶交感神経と副交感神経、腸神経系 - 内分泌系とホルモン ▶ホルモンとは、内分泌器官の構造とホルモンの機能	外部講師	事前：教科書の該当する範囲を読む 事後：ワークブックで復習する
第12回	消化・吸収・代謝のしくみ①	- 消化管の基本構造と機能 歯、口腔、咽頭の構造と機能	外部講師	事前：教科書の該当する範囲を読む 事後：ワークブックで復習する
第13回	消化・吸収・代謝のしくみ②	- 消化管の構造 ▶食道、胃、小腸、大腸	外部講師	事前：教科書の該当する範囲を読む 事後：ワークブックで復習する
第14回	消化・吸収・代謝のしくみ③	- 肝臓、胆嚢、膵臓 - 腹膜 - 栄養素の消化と吸収、代謝	外部講師	事前：教科書の該当する範囲を読む 事後：ワークブックで復習する
第15回	筆記試験	まとめ	専任教員	
評価方法				
筆記試験：100%				
授業を受けるにあたっての留意点など				
この講義は看護形態機能学や病態疾病論、基礎看護学と強く関連しています。専門用語が多いためワークブックを活用し理解を深めていきましょう。				

分野						開講時期		単位(時間)	
専門基礎分野						1 年次 前期		1 単位 30 時間	
科目名						科目種類		担当教員	
解剖生理学Ⅱ						講義		外部講師	
授業の目的および概要									
医療行為は、人体への様々な介入が含まれます。人体の構造と機能についての正確な理解がなければ、その医療行為そのものが、悪害をもたらすことになりかねません。人体の構造と機能は、看護においても看護実践における日常生活援助を考える際の土台となり、看護行為における科学的根拠を理解するための手助けとなります。 ここでは、人間の身体の構造要素がどのようになっているか、またその構成要素がどのように作られてくるのかを理解します。そして、生命を維持するためのそれぞれの器官についてその位置関係や形状、内部構造、人体における役割について学ぶことを目的としています。									
到達目標									
1. 各臓器の構造が述べられる 2. 各臓器の機能が述べられる									
この授業が目的としている DP や関連する科目									
DP との関連性						関連する科目			
①	②	③	④	⑤	⑥	解剖生理Ⅰ、看護形態機能学Ⅰ・Ⅱ、共通看護技術、食事・排泄援助技術、活動・休息援助技術			
◎		◎							
教科書・参考図書									
専門基礎分野 人体の構造と機能【1】 解剖生理学 医学書院									
授業計画	授業内容					担当/ 講義方法	授業外学習		
	主題(単元)	内容							
第1回	授業ガイダンス 腎臓	・授業の概要と目標、授業の進め方について説明、担当講師や評価について説明 ・腎臓、糸球体、尿細管の構造と機能、クリアランスと糸球体濾過				専任教員 外部講師	事前：シラバスの内容を事前に確認する		
第2回	体液	・体液の調整 ・酸塩基平衡の調節 ・体液の恒常性維持機能 ・体液平衡の異常				外部講師	事前：教科書の該当する範囲を読む 事後：ワークブックで復習する		
第3回	血液	・血液の細胞成分と造血 ・血液の機能と物理化学的特性 ▶赤血球の機能、白血球の機能、止血と血液凝固、血液型と輸血				外部講師	事前：教科書の該当する範囲を読む 事後：ワークブックで復習する		
第4回	リンパ系	・リンパ系の構造、リンパ管の構造と機能 ▶リンパ液、リンパ節、扁桃、脾臓、胸腺				外部講師	事前：教科書の該当する範囲を読む 事後：ワークブックで復習する		
第5回	恒常性維持のしくみ	・非特異性生体防御機構 ・特異的生体防御機構 ・体温				外部講師	事前：教科書の該当する範囲を読む 事後：ワークブックで復習する		
第6回	内分泌	・内分泌器官の構造とホルモンの機能				外部講師	事前：教科書の該当する範囲を読む 事後：ワークブックで復習する		
第7回	消化・吸収・代謝のしくみ①	・消化管の基本構造と機能 ▶食道、胃				外部講師	事前：教科書の該当する範囲を読む 事後：ワークブックで復習する		

第8回	消化・吸収・代謝のしくみ②	- 消化管の構造と機能 ▶ 小腸、大腸	外部講師	事前：教科書の該当する範囲を読む 事後：ワークブックで復習する
第9回	消化・吸収・代謝のしくみ③	- 肝臓、胆嚢、膵臓 - 腹膜	外部講師	事前：教科書の該当する範囲を読む 事後：ワークブックで復習する
第10回	消化・吸収・代謝のしくみ④	栄養素の消化と吸収、代謝	外部講師	事前：教科書の該当する範囲を読む 事後：ワークブックで復習する
第11回	神経系の構造と機能	- 神経細胞と支持細胞 - シナプス伝達 - 神経伝達物質	外部講師	事前：教科書の該当する範囲を読む 事後：ワークブックで復習する
第12回	脳の構造と機能	- 脳幹の構造と機能 - 小脳の構造と機能 - 間脳の構造と機能 - 大脳の構造と機能	外部講師	事前：教科書の該当する範囲を読む 事後：ワークブックで復習する
第13回	情報受容のしくみ	- 視聴覚 ▶ 視聴覚器の構造、視覚 - 聴覚、平衡覚 ▶ 聴覚・平衡覚器の構造、聴覚、平衡覚	外部講師	事前：教科書の該当する範囲を読む 事後：ワークブックで復習する
第14回	脳の高次機能	- 脳波と睡眠、記憶 - 本能行動と情動行動	外部講師	事前：教科書の該当する範囲を読む 事後：ワークブックで復習する
第15回	筆記試験	まとめ	専任教員	
評価方法				
筆記試験：100%				
授業を受けるにあたっての留意点など				
この講義は看護形態機能学や看護病態論、看護を行う上での土台となる知識になります。専門用語が多いためワークブックを活用し理解を深めていきましょう。				

分野						開講時期		単位(時間)	
専門基礎分野						1 年次 前期		1 単位 30時間	
科目名						科目種類		担当教員	
解剖生理学Ⅲ						講義		外部講師	
授業の目的および概要									
医療行為は、人体への様々な介入が含まれます。人体の構造と機能についての正確な理解がなければ、その医療行為そのものが、悪害をもたらすことになりかねません。人体の構造と機能は、看護においても看護実践における日常生活援助を考える際の土台となり、看護行為における科学的根拠を理解するための手助けとなります。 ここでは、人間の身体の構造要素がどのようになっているか、またその構成要素がどのように作られてくるのかを理解します。そして、生命を維持するためのそれぞれの器官についてその位置関係や形状、内部構造、人体における役割について学ぶことを目的としています。									
到達目標									
1. 各臓器の構造が述べられる 2. 各臓器の機能が述べられる									
この授業が目的としている DP や関連する科目									
DP との関連性						関連する科目			
①	②	③	④	⑤	⑥	解剖生理学Ⅰ、解剖生理学Ⅱ、看護形態機能学Ⅰ・Ⅱ、共通看護技術、食事・排泄援助技術、活動・休息援助技術			
◎		◎							
教科書・参考図書									
専門基礎分野 人体の構造と機能【1】 解剖生理学 医学書院									
授業計画	授業内容					担当/ 講義方法	授業外学習		
	主題(単元)	内容							
第1回	授業ガイダンス 感覚器系と運動系	・授業の概要と目標、授業の進め方について説明、担当講師や評価について説明 ・感覚器系の伝導路、運動系の伝導路				専任教員 外部講師	事前：シラバスの内容を事前に確認する		
第2回	末梢神経系①	・体性神経系、脳神経系				外部講師	事前：教科書の該当する範囲を読む 事後：ワークブックで復習する		
第3回	末梢神経系②	・自律神経				外部講師	事前：教科書の該当する範囲を読む 事後：ワークブックで復習する		
第4回	からだの支持・運動①	・骨の構造、骨の連結、骨格筋、姿勢				外部講師	事前：教科書の該当する範囲を読む 事後：ワークブックで復習する		
第5回	からだの支持・運動②	・体幹の骨格と筋 ・上肢の骨格と筋				外部講師	事前：教科書の該当する範囲を読む 事後：ワークブックで復習する		
第6回	からだの支持・運動③	・下肢の骨格と筋 ・筋の収縮、反射、随意運動				外部講師	事前：教科書の該当する範囲を読む 事後：ワークブックで復習する		
第7回	循環器の構造と機能①	・心臓の構造と機能				外部講師	事前：教科書の該当する範囲を読む 事後：ワークブックで復習する		
第8回	循環器の構造と機能②	・血管の構造と機能				外部講師	事前：教科書の該当する範囲を読む 事後：ワークブックで復習する		

第9回	循環器系①	・体循環	外部講師	事前：教科書の該当する範囲を読む 事後：ワークブックで復習する
第10回	循環器系②	・肺循環	外部講師	事前：教科書の該当する範囲を読む 事後：ワークブックで復習する
第11回	呼吸のしくみ①	・呼吸器の構造	外部講師	事前：教科書の該当する範囲を読む 事後：ワークブックで復習する
第12回	呼吸のしくみ②	・呼吸器の機能	外部講師	事前：教科書の該当する範囲を読む 事後：ワークブックで復習する
第13回	受精と胎児の発生	・生殖細胞の分化と減数分裂、性の決定、生殖器	外部講師	事前：教科書の該当する範囲を読む 事後：ワークブックで復習する
第14回	成長と老化	・出生後の変化、思春期の身体成長、加齢に伴う全身機能の変化	外部講師	事前：教科書の該当する範囲を読む 事後：ワークブックで復習する
第15回	筆記試験	・まとめ	専任教員	
評価方法				
筆記試験：100%				
授業を受けるにあたっての留意点など				
この講義は看護形態機能学や看護病態論、看護を行う上での土台となる知識になります。専門用語が多いためワークブックを活用し理解を深めていきましょう。				

分野						開講時期		単位(時間)	
専門基礎分野						1 年次 前期		1 単位 15 時間	
科目名						科目種類		担当教員	
看護形態機能学 I						講義		外部講師	
授業の目的および概要									
看護形態機能学では、看護の対象である人間の身体について系統的に構造・機能・維持の仕組みを理解する必要があります。解剖生理学とこれから学ぶ看護学への橋渡しとして看護形態機能学を学ぶことは看護行為における科学的根拠を理解する手助けとなります。									
看護形態機能学 I では命を支えるからだの仕組みとして内部環境の恒常性(体液・水分出納)、恒常性維持のための物流(心臓・血管系、血液の循環)や調節機構(神経性調節、液性調節)について理解することを目的としています。									
到達目標									
1. 体液・水分出納・酸塩基平衡・体温など内部環境の恒常性維持の仕組みについて述べられる									
2. 流通の媒体としての血液、流通路としてのリンパ管、流通の原動力としての心臓の機能について述べられる									
3. 神経性調節における受容体、中枢神経、末梢神経、液性調節におけるホルモンの機能について述べられる									
この授業が目的としている DP や関連する科目									
DP との関連性						関連する科目			
①	②	③	④	⑤	⑥	生活行動からみるからだ、解剖生理 I ～Ⅲ			
◎		◎							
教科書・参考図書									
人体の構造と機能③ 形態機能学 メヂカルフレンド社									
看護形態機能学 生活行動からみるからだ 菱沼典子 日本看護協会出版会									
看護につなげる形態機能学 菱沼典子 メヂカルフレンド社									
授業計画	授業内容					担当/ 講義方法	授業外学習		
	主題(単元)	内容							
第 1 回	授業ガイダンス 内部環境の恒常性①	・授業の概要と目標、授業の進め方についての説明、担当講師や評価についての説明 ・体液とその循環 ▶ 体液の分類と量 ▶ 体液の電解質 ▶ 血漿の pH ▶ 水分出納				外部講師	事前：シラバスの内容を事前に確認する		
第 2 回	内部環境の恒常性②	・内部環境の恒常性 ▶ 酸素と二酸化炭素の恒常性 ▶ 血糖値の恒常性 ▶ 体温の恒常性				外部講師	事前：教科書の該当する範囲を読む 事後：講義内容を復習する		
第 3 回	恒常性維持のための物質の流通①	・流通の媒体：血液 ▶ 血液の恒常性維持、物質の運搬 止血機構、血小板、血液の凝固 ▶ 血管・リンパのしくみ、免疫				外部講師	事前：教科書の該当する範囲を読む 事後：講義内容を復習する		
第 4 回	恒常性維持のための物質の流通②	・流通の原動力 ▶ 心臓の構造と機能、冠循環、刺激電動系、心電図 ▶ 血圧の調節、末梢循環の調節				外部講師	事前：教科書の該当する範囲を読む 事後：講義内容を復習する		
第 5 回	恒常性維持のための調節機構①	・神経性調節 ▶ 受容器 ▶ 中枢神経 ▶ 末梢神経				外部講師	事前：教科書の該当する範囲を読む 事後：講義内容を復習する		
第 6 回	恒常性維持のための調節機構②	・液性調節 ▶ ホルモンの作用機序 ▶ ホルモンの分泌調節 ▶ 恒常性維持のためのホルモンの働き 体液量、代謝速度、タンパク合成、 血糖、血中 Na・K・Ca の調節				外部講師	事前：教科書の該当する範囲を読む 事後：講義内容を復習する		
第 7 回	ストレスと恒常性維持 からだの仕組みと看護	・ストレスとは ・ストレスとホルモンのはたらき ・看護形態機能学 I のまとめ				外部講師	事前：教科書の該当する範囲を読む 事後：講義内容を復習する		
第 8 回	筆記試験					専任教員			
評価方法									
筆記試験：100%									
授業を受けるにあたっての留意点など									
細胞レベルで目に見えない命を支えるからだの仕組みを考えるため、専門用語が多く難しく感じると思います。看護形態機能学で学ぶ人体の構造と機能はこのあと学習する多くの科目の土台となりますので、単元まとめプリント①～⑥を復習し理解を深めていきましょう。									

分野						開講時期		単位(時間)	
専門基礎分野						1 年次 前期		1 単位 30 時間	
科目名						科目種類		担当教員	
看護形態機能学Ⅱ						講義		専任教員	
授業の目的および概要									
看護形態機能学では、看護の対象である人間の身体について系統的に構造・機能・維持の仕組みを理解する必要があります。看護の対象である人間の人体の構造と機能、その働きを理解することで、看護行為における科学的根拠を理解する手助けとなります。 看護形態機能学Ⅱでは生活を営むひととして生命を維持し生活するための日常生活行動のしくみをからだの構造と機能から理解することを目的としています。									
到達目標									
1. 息をするしくみが述べられる 2. 動く、活動するしくみが述べられる 3. 吸収された栄養素の代謝について述べられる 4. 尿生成の過程と尿を体外に排出するしくみについて述べられる									
この授業が目的としている DP や関連する科目									
DP との関連性						関連する科目			
①	②	③	④	⑤	⑥	生活行動からみるからだ、解剖生理学Ⅰ～Ⅲ、看護形態機能学Ⅰ			
◎		◎							
教科書・参考図書									
人体の構造と機能③ 形態機能学 メヂカルフレンド社 看護形態機能学 生活行動からみるからだ 第4版 日本看護協会出版社 日常生活行動からみるヘルスアセスメント 看護形態機能学の枠組みを用いて 日本看護協会出版会 基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ									
授業計画	授業内容					担当/ 講義方法	授業外学習		
	主題(単元)	内容							
第1回	授業ガイダンス 思考する	• 授業の概要と目標、授業の進め方について説明、担当教員や評価について説明 • 思考するとは • 思考はなぜ必要か • 思考はどこのどの機能が発揮されて行われるのか				専任教員	事前：シラバスの内容を事前に確認する 事後：講義内容を復習する		
第2回	コミュニケーションをとる	• コミュニケーションをとるにはどこがどのような働きをするのか • アセスメントの視点 ▶ 身体的側面 ▶ 心理的側面 ▶ 社会的側面				専任教員	事後：アセスメントの視点を整理する		
第3回	動く、活動する①	• 「動く、活動する」には、どこがどのような働きをするのか ▶ 歩いて感じて考える ▶ 姿勢を保持する				専任教員	事前：教科書の該当する範囲を読む 事後：講義内容を復習する		
第4回	動く、活動する②	• 「活動」のアセスメントの視点 ▶ 廃用症候群とそのリスクアセスメント ▶ 運動機能のアセスメント				専任教員	事前：演習要項を読む 事後：アセスメントの視点を整理する		
第5回	休息する、眠る	• 休息、眠るには、どこがどのような働きをするのか • 「睡眠」のアセスメントの視点 ▶ 睡眠の障害とアセスメント				専任教員	事前：教科書の該当する範囲を読む 事後：アセスメントの視点を整理する		

第6回	食べるとは ①	• 食べるにはどこがどのような働きをするのか • ひとにとって「食べる」とは • 食欲 • 食行動、咀嚼し味わう、飲み込む	専任教員	事前：教科書の該当する範囲を読む 事後：講義内容を復習する
第7回	消化管の消化と吸収・代謝	• 食べ物がどのように消化、吸収、代謝するのか • 食事・栄養摂取のアセスメントの視点	専任教員	事前：教科書の該当する範囲を読む 事後：アセスメントの視点を整理する
第8回	排尿をする	• 排尿をするにはどこがどのような働きをするのか • アセスメントの視点 ▶ 頻尿と尿失禁のアセスメント ▶ 排尿困難と尿閉のアセスメント	専任教員	事前：教科書の該当する範囲を読む 事後：アセスメントの視点を整理する
第9回	排便をする	• 排便をするにはどこがどのような働きをするのか • アセスメントの視点 ▶ 便秘、下痢、便失禁のアセスメント	専任教員	事前：質問や感想を考える 事後：アセスメントの視点を整理する
第10回	息をする①	• 息をするには、どこがどのような働きをするのか	専任教員	事前：教科書の該当する範囲を読む 事後：講義内容を復習する
第11回	息をする②	• 呼吸状態のアセスメントの視点	専任教員	事前：教科書の該当する範囲を読む 事後：アセスメントの視点を整理する
第12回	お風呂に入る、身だしなみを整える	• お風呂に入るにはどこがどのような働きをするのか • 清潔援助の対象者のアセスメントの視点 • 普通浴のアセスメントの視点	専任教員	事前：教科書の該当する範囲を読む 事後：アセスメントの視点を整理する
第13回	生活するひとのからだ ①	演習 ひとのからだをつくろう	専任教員 GW	事後：作成の続きを行う
第14回	生活するひとのからだ ②	• 発表会	専任教員 GW	事前：発表の準備
第15回	筆記試験	• まとめ	専任教員	
評価方法				
筆記試験：100%				
授業を受けるにあたっての留意点など				
専門用語が多く難しく感じますが、人体の構造と機能はこのあと学習する多くの科目の土台となります。予習復習を行い理解を深めていきましょう。				

分野						開講時期		単位(時間)	
専門基礎分野						1 年次 後期		1 単位 30 時間	
科目名						科目種類		担当教員	
栄養と健康						講義		外部講師	
授業の目的および概要									
栄養は人の発育・成長や健全な生命活動を営むために体外から取り入れるべき必須物質であります。看護者は看護の対象になる人の健康レベルに合わせて、健康管理のために食生活・栄養管理の改善・充実に貢献する必要があります。 ここでは、栄養の基礎知識を学び、さらに、各疾患や患者個々に応じた適正な栄養・食事管理を実践するために必要な知識を習得することを目的とします。									
到達目標									
1. 栄養素の種類、はたらきについて述べられる 2. エネルギー代謝について述べられる 3. 栄養状態・栄養素の消化吸収と体内代謝について述べられる 4. 栄養ケア・マネジメント及びライフステージごとの栄養、臨床栄養の基礎となる知識を述べられる 5. 食事療法の特徴を理解し、実践方法を説明できる									
この授業が目的としている DP や関連する科目									
DP との関連性						関連する科目			
①	②	③	④	⑤	⑥	生活行動からみるからだのしくみ、看護形態機能学Ⅰ・Ⅱ、看護病態論Ⅱ・Ⅲ、食事・排泄援助技術			
	◎	◎			◎				
教科書・参考図書									
専門基礎分野 人体の構造と機能【3】 栄養学 医学書院									
授業計画	授業内容					担当/ 講義方法	授業外学習		
	主題(単元)	内容							
第1回	授業ガイダンス	・授業の概要と目標、授業の進め方について説明 ・栄養素と人間の栄養状態 ・看護と栄養				専任教員 外部講師	事前：シラバスの内容を事前に確認する		
第2回	栄養素の種類と働き①	・糖質、脂質、タンパク質				外部講師	事前：教科書の該当ページを通読する 事後：復習する		
第3回	栄養素の種類と働き②	・第2回目の範囲の小テスト ・ビタミン、ミネラル、水、食物繊維				外部講師	事前：教科書の該当ページを通読する 事後：復習する		
第4回	食物の消化と栄養素の吸収・代謝	・第3回目の範囲の小テスト ・食物の消化 ・栄養素の吸収と代謝 ・吸収と代謝産物の排泄				外部講師	事前：教科書の該当ページを通読する 事後：復習する		
第5回	食品成分と食事摂取基準	・第4回目の範囲の小テスト ・食品成分とエネルギー ・日本人の食事摂取基準				外部講師	事前：教科書の該当ページを通読する 事後：自己のエネルギー消費量を計算する		
第6回	栄養状態の評価・判定	・栄養アセスメントの方法 ・栄養状態の総合評価				外部講師	事前：食事・排泄援助技術の復習		
第7回	ライフステージと栄養①	・第6回目の範囲の小テスト ・乳児、幼児、学童、青年、成人各期における栄養				外部講師	事前：教科書の該当ページを通読する 事後：復習する		

第8回	ライフステージと栄養②	• 妊娠、授乳、更年、高齢者各期における栄養	外部講師	事前：教科書の該当ページを通読する 事後：復習する
第9回	療養生活と栄養	• 治療による回復を促すための食事と栄養管理 • 経口摂取できない患者のための栄養管理	外部講師	事前：教科書の該当ページを通読する 事後：復習する
第10回	食事療法①	• 第9回目の範囲の小テスト • 消化器系疾患 ▶ 胃・腸疾患、肝臓・胆嚢・膵臓疾患	外部講師	事前：教科書の該当ページを通読する 事後：復習する
第11回	食事療法②	• 内分泌・代謝疾患 ▶ 肥満症、糖尿病、脂質異常症、高尿酸血症、メタボリックシンドローム	外部講師	事前：教科書の該当ページを通読する 事後：復習する
第12回	食事療法③	• 循環器系疾患 ▶ 高血圧症、動脈硬化症、心不全、脳血管障害	外部講師	事前：教科書の該当ページを通読する 事後：復習する
第13回	食事療法④	• 腎疾患 ▶ 急性腎炎症候群、ネフローゼ症候群、慢性腎臓病	外部講師	事前：教科書の該当ページを通読する 事後：復習する
第14回	健康づくりと食生活	• 健康増進のための栄養食事指導 • チームアプローチと看護師の役割	外部講師	事前：教科書の該当ページを通読する 事後：復習する
第15回	筆記試験	• まとめ	専任教員	
評価方法				
筆記試験：70% 小テスト：30% (5回分)				
授業を受けるにあたっての留意点など				
授業で使用する教科書、プリントは忘れずに持参してください。				

分野						開講時期		単位(時間)	
専門基礎分野						1 年次 後期		1 単位 30時間	
科目名						科目種類		担当教員	
病気の発生とメカニズム						講義		外部講師 専任教員	
授業の目的および概要									
健康障害を持つ人の看護において、人の体内で細胞や組織、生理機能がどのように障害されて病気を引き起こしているのかを理解しエビデンスを持ち看護実践をすることが重要である。 ここでは看護実践に必要な病気の成り立ちや様々な症状の原因・病態生理を学ぶ。先天性異常・代謝異常・循環障害・炎症・主要の病変について理解し、疾病がもたらす身体内部の変化について理解しエビデンスを持ち看護実践できるための基礎となるメカニズムを学ぶことを目的とする。									
到達目標									
1. 症状・疾病についてその原因を理解し説明することができる 2. 症状や疾病は、正常な人体の構造とはたらきや破綻によることを理解し述べられる									
この授業が目的としている DP や関連する科目									
DP との関連性						関連する科目			
①	②	③	④	⑤	⑥	解剖生理学Ⅰ～Ⅲ、看護形態機能学Ⅰ～Ⅱ、看護病態論Ⅰ～Ⅴ			
	◎	◎							
教科書・参考図書									
専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進【1】 病理学 医学書院 ナーシング・グラフィカ 病気の成り立ちと回復の促進① 病態生理学 メディカ出版									
授業計画	授業内容					担当/ 講義方法	授業外学習		
	主題(単元)	内容							
第1回	授業ガイダンス 内因と外因	・授業の概要と目標、授業の進め方について説明、担当講師や評価について説明 ・病気の発生とメカニズムを学ぶ目的と意義				専任教員 外部講師	事前：シラバスの内容を事前に確認する		
第2回	細胞・組織の損傷と適応①	・細胞・組織の損傷と適応 ▶萎縮、肥大と過形成、壊死とアポトーシス ・変性、創傷とその治癒、再生と修復				外部講師	事前：該当する教科書の範囲を読む 事後：講義内容を復習する		
第3回	炎症、損傷、修復 炎症性疾患	・細胞・組織の損傷に対する反応 ▶炎症反応、組織の修復と創傷治癒 ・分類と治療				外部講師	事前：該当する教科書の範囲を読む 事後：講義内容を復習する		
第4回	免疫異常、アレルギー、移植と再生医療	・免疫と免疫不全 ・アレルギーと自己免疫疾患 ・移植と再生医療				外部講師	事前：該当する教科書の範囲を読む 事後：講義内容を復習する		
第5回	感染と感染症	・感染の成立と発病 ▶生体の防御機構、感染経路、感染経過、発生機序、常在細菌と日和見感染症、ウイルス、真菌、微生物 ・主な感染症と予防・治療				外部講師	事前：該当する教科書の範囲を読む 事後：講義内容を復習する		
第6回	循環障害と循環器系疾患①	・循環系の概要 ▶浮腫、充血とうっ血、出血と止血 ・循環系の疾患 ▶血栓症と塞栓症、虚血と梗塞、側副循環障害、高血圧症、DIC、ショックと臓器不全				外部講師	事前：該当する教科書の範囲を読む 事後：講義内容を復習する		
第7回	先天異常	・遺伝の生物学 ・先天異常 ・遺伝子の異常と疾患、診断、治療				外部講師	事前：該当する教科書の範囲を読む 事後：講義内容を復習する		

第8回	腫瘍①	- 腫瘍の定義と分類 - 広がりや影響 - 腫瘍の発生機序、因子、診断、治療	外部講師	事前：該当する教科書の範囲を読む 事後：講義内容を復習する
第9回	代謝異常	- 脂質代謝障害 - タンパク代謝障害 - 糖質代謝異常 - その他の代謝異常と疾患	外部講師	事前：該当する教科書の範囲を読む 事後：講義内容を復習する
第10回	老化と死 その他の異常	- 個体の老化と老年症候群 - 細胞・組織・臓器の変化 - 個体の死、脳死と植物状態 - 生活習慣による生体への影響 - 放射線による生体への影響 - 中毒	外部講師	事前：該当する教科書の範囲を読む 事後：講義内容を復習する
第11回	病態関連図 ①	演習内容 炎症についての病態関連図の作成	専任教員 個人ワーク	事前：必要な資料を準備する 事後：課題①炎症の病態関連図を完成させる
第12回	病態関連図 ②	演習内容 腫瘍についての病態関連図の作成	専任教員 個人ワーク	事前：必要な資料を準備する 事後：課題②腫瘍の病態関連図を完成させる
第13回	病態関連図 ③	演習内容 梗塞についての病態関連図の作成	専任教員 個人ワーク	事前：必要な資料を準備する 事後：課題③梗塞の病態関連図を完成させる
第14回	病態関連図 ④	演習内容 出血についての病態関連図の作成	専任教員 個人ワーク	事前：必要な資料を準備する 事後：課題④出血の病態関連図を完成させる
第15回	筆記試験	まとめ	専任教員	
評価方法				
筆記試験：100%				
授業を受けるにあたっての留意点など				
次回予定内容の該当項目を一読し授業内容を把握しておく。また、内容理解に際しては看護形態機能学の知識も必要となるため予定講義内容に該当する看護形態機能学の内容も一読する。 授業内容はメモやノートにとるなどしながら後に復習ができるようにする。 授業後の復習は授業でとったノートを整理しテキストの内容を理解することに努める。その際、看護形態機能学の該当する項目を学習すると理解が深まる。この段階で疑問点が生じた場合は次回講義終了後に教員に質問して問題解決を図る。				

分野						開講時期		単位(時間)	
専門基礎分野						1 年次 後期		1 単位 30時間	
科目名						科目種類		担当教員	
看護病態論 I						講義		外部講師	
授業の目的および概要									
ヒトが「看護」を必要とする状態となるのは、多くの場合「疾患」への罹患からです。疾患をもたらしている原因は、身体の生理的過程に複雑な作用を及ぼし、しばしば患者の生命・生活にマイナスの影響をもたらします。治療もまた生理的過程に作用を及ぼします。看護はそうした生命・生活への影響を最小限にするためになされ、そこには根拠が必要となります。そのために看護師は、患者の身体で起こっている生理的過程やその障害などの様々な現象について理解する必要があります。 疾病論では、各臓器に何らかの障害が起こった場合に、その患者がいかなる状態に置かれるかを理解し、疾患・症状に対する治療・検査・用いられる主な薬剤の作用・副作用等について学習します。 ここでは循環機能、呼吸機能に障害の代表的な疾患の病態生理、検査、治療について学習することを目的とします。									
到達目標									
1. 循環機能障害を起こす、循環器疾患の病態生理が理解し述べられる 2. 循環器系疾患を持つ人の身体的アセスメントができる基礎的知識を習得し、検査・治療の方法が理解し述べられる 3. 呼吸機能障害を起こす呼吸器疾患の病態生理が理解し述べられる 4. 呼吸器系疾患を持つ人の身体的アセスメントができる基礎的知識を習得し、検査・治療の方法が述べられる									
この授業が目的としている DP や関連する科目									
DP との関連性						関連する科目			
①	②	③	④	⑤	⑥	解剖生理学 I、看護形態機能学 I			
	◎	◎		◎					
教科書・参考図書									
専門分野 成人看護学【3】 循環器 医学書院									
授業計画	授業内容					担当/ 講義方法	授業外学習		
	主題(単元)	内容							
第1回	授業ガイダンス 循環器総論	・授業の概要と目標、授業の進め方について説明、担当講師や評価について説明(10分程度) ・心臓総論 解剖、生理、診察、検査 ・血管総論 動脈・静脈の走行 ・高血圧				専任教員 外部講師	事前：シラバスの内容を事前に確認する。 循環器の解剖生理を復習してから臨む 事後：講義の内容を復習する		
第2回	心不全	・心不全の病態生理・分類、検査所見、診断、治療について(急性期・慢性期)				外部講師	事前：教科書の該当する範囲を読む 事後：講義の内容を復習すること		
第3回	不整脈	・不整脈の定義、分類、検査 ・徐脈性不整脈の疾患と治療、頻脈性不整脈の疾患と治療				外部講師	事前：教科書の該当する範囲を読む 事後：講義の内容を復習すること		
第4回	虚血性心疾患	・虚血性心疾患の概要、分類、症状、検査、診断 ・狭心症、心筋梗塞と治療				外部講師	事前：教科書の該当する範囲を読む 事後：講義の内容を復習すること		
第5回	弁膜症	・僧帽弁疾患、大動脈弁疾患の概要、症状、検査、診断 ・狭窄症、閉鎖不全症				外部講師	事前：教科書の該当する範囲を読む 事後：講義の内容を復習すること		
第6回	心筋・心膜疾患	・心筋症、心膜炎の概要、症状、検査、診断 ・感染性心内膜炎、拡張型心筋症、肥大型心筋症、心タンポナーデ				外部講師	事前：教科書の該当する範囲を読む 事後：講義の内容を復習すること		

第7回	脈管系疾患	- 動脈疾患（大動脈解離、大動脈瘤、閉塞性動脈硬化症）の病態、診断、治療 - 静脈疾患（深部静脈血栓症、肺血栓塞栓症、下肢静脈瘤）の病態、診断、治療	外部講師	事前：教科書の該当する範囲を読む 事後：講義の内容を復習すること
第8回	呼吸器総論	- 呼吸器 解剖、生理（呼吸調節、換気運動、ガス交換、酸塩基平衡） - 症状とその病態生理、疾患、治療	外部講師	事前：呼吸器の解剖生理を復習してから臨む 事後：講義の内容を復習すること
第9回	感染症総論 呼吸器感染症	- 感染症とは、感染対策、標準予防策 - 新型コロナウイルス感染症の概要、症状、検査、診断、治療	外部講師	事前：教科書の該当する範囲を読む 事後：講義の内容を復習すること
第10回	呼吸器感染症	呼吸器感染症（かぜ症候群、急性気管支炎、インフルエンザ、肺炎、結核等）の概念、検査、診断、治療	外部講師	事前：教科書の該当する範囲を読む 事後：講義の内容を復習すること
第11回	気道疾患	気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患の概念、検査、診断、治療	外部講師	事前：教科書の該当する範囲を読む 事後：講義の内容を復習すること
第12回	肺腫瘍	肺がんの種類、分類、特徴的な症状、検査、診断、治療	外部講師	事前：教科書の該当する範囲を読む 事後：講義の内容を復習すること
第13回	間質性肺疾患 肺循環疾患 胸膜・縦隔・横隔膜疾患について	- 特発性肺線維症、サルコイドーシス、好酸球性肺疾患等の間質性肺疾患について - 肺高血圧症について - 胸膜炎、気胸など胸膜・縦隔・横隔膜疾患について	外部講師	事前：教科書の該当する範囲を読む 事後：講義の内容を復習すること
第14回	呼吸調節に関する疾患	- 睡眠時無呼吸症候群について - 睡眠障害の概要、合併症、検査、診断、治療	外部講師	事前：教科書の該当する範囲を読む 事後：講義の内容を復習すること
第15回	筆記試験	まとめ	専任教員	
評価方法				
筆記試験：100%（循環器50% 呼吸器50%）				
授業を受けるにあたっての留意点など				
単元の予習、関連する看護形態機能学を復習して臨むこと。 講師が複数となるため、持参する教科書に注意しましょう。				

分野						開講時期		単位(時間)	
専門基礎分野						1 年次 後期		1 単位 30 時間	
科目名						科目種類		担当教員	
看護病態論Ⅱ						講義		外部講師	
授業の目的および概要									
人が「看護」を必要とする状態となるのは、多くの場合「疾患」への罹患からである。疾患をもたらしている原因や治療は生理的過程に作用を及ぼし、しばしば患者の生命・生活にマイナスな影響をもたらす。看護師は、患者の身体で起こっている生理的過程やその障害など様々な現象について理解し、看護を実践していく必要がある。 本講義では、免疫機能、内分泌／栄養・代謝機能、血液造血器、女性生殖器に何らかの障害が起こった場合に、その患者がいかなる状態に置かれるかを理解し、疾患・症状に対する治療・検査、看護を学ぶことを目的とします。									
到達目標									
1. 免疫機能の障害を起こす代表的な疾患の病態生理を理解し述べられる 2. 内分泌／栄養・代謝機能の障害を起こす代表的な疾患の病態生理を理解し述べられる 3. 血液造血器機能の障害を起こす代表的な疾患の病態生理を理解し述べられる 4. 女性生殖器機能の障害を起こす代表的な疾患の病態生理を理解し述べられる 5. それぞれの疾患に対する治療・検査・看護について、疾患と関連させ説明することができる									
この授業が目的としている DP や関連する科目									
DP との関連性						関連する科目			
①	②	③	④	⑤	⑥	解剖生理学Ⅰ～Ⅲ、看護形態機能学Ⅰ・Ⅱ			
	◎	◎			◎				
教科書・参考図書									
専門分野 成人看護学【11】 アレルギー・膠原病・感染症 医学書院 専門分野 成人看護学【6】 内分泌・代謝 医学書院 専門分野 成人看護学【4】 血液・造血器 医学書院 専門分野 成人看護学【9】 女性生殖器 医学書院									
授業計画	授業内容					担当/ 講義方法	授業外学習		
	主題(単元)		内容						
第1回	授業ガイダンス 免疫機能①		・授業の概要と目標、授業の進め方について、担当講師や評価について(専任教員が10分間で説明する) ・アレルギー疾患について ・アレルギーのしくみ、免疫反応と病気他			専任教員 外部講師	事前：シラバスの内容を事前に確認する 教科書の該当範囲を読む		
第2回	免疫機能②		・膠原病について ・膠原病とは ・自己免疫疾患の症状と病態生理			外部講師	事前：教科書の該当する範囲を読む 事後：講義の内容を復習すること		
第3回	免疫機能③		・感染症について ・感染症とは ・感染症の症状、治療他			外部講師	事前：教科書の該当する範囲を読む 事後：講義の内容を復習すること		
第4回	内分泌・代謝①		・内分泌疾患① ▶ 視床下部一下垂体前葉系疾患			外部講師	事前：教科書の該当する範囲を読む 事後：講義の内容を復習すること		
第5回	内分泌・代謝②		・内分泌疾患② ▶ 甲状腺疾患、副甲状腺疾患、副腎疾患、消化管ホルモン			外部講師	事前：教科書の該当する範囲を読む 事後：講義の内容を復習すること		
第6回	内分泌・代謝③		・代謝疾患① ▶ 糖代謝、糖尿病			外部講師	事前：教科書の該当する範囲を読む 事後：講義の内容を復習すること		

第7回	内分泌・代謝 ④	・代謝疾患② ▶ 脂質代謝およびその異常、尿酸代謝	外部講師	事前：教科書の該当する範囲を 読む 事後：講義の内容を復習すること
第8回	血液・造血器 ①	・赤血球系の異常	外部講師	事前：教科書の該当する範囲を 読む 事後：講義の内容を復習すること
第9回	血液・造血器 ②	・白血球系の異常 ・造血器腫瘍① ▶ 治療について、白血病	外部講師	事前：教科書の該当する範囲を 読む 事後：講義の内容を復習すること
第10回	血液・造血器 ③	・造血器腫瘍② ▶ 悪性リンパ腫、多発性骨髄腫	外部講師	事前：教科書の該当する範囲を 読む 事後：講義の内容を復習すること
第11回	血液・造血器 ④	・出血性疾患 ▶ 血管異常、血小板異常、凝固異常、DIC	外部講師	事前：教科書の該当する範囲を 読む 事後：講義の内容を復習すること
第12回	女性生殖器 ①	・性分化疾患、感染症	外部講師	事前：教科書の該当する範囲を 読む 事後：講義の内容を復習すること
第13回	女性生殖器 ②	・臓器別疾患 ▶ 外陰疾患、膣の疾患、子宮の疾患、卵管、卵巣 の疾患、骨盤内炎症性疾患、乳房の疾患	外部講師	事前：教科書の該当する範囲を 読む 事後：講義の内容を復習すること
第14回	女性生殖器 ③	・機能的疾患 ▶ 月経異常・月経随伴症状 ▶ 更年期障害、不妊症、不育症	外部講師	事前：教科書の該当する範囲を 読む 事後：講義の内容を復習すること
第15回	筆記試験	・まとめ	専任教員	
評価方法				
筆記試験：100%（アレルギー・膠原病20% 内分泌・代謝30% 血液・造血器30% 女性生殖器20%）				
授業を受けるにあたっての留意点など				
授業開始前には必ず配布資料の確認を行い、授業に臨んでください。 看護形態機能学Ⅰ、Ⅱなどを活用し、本講義の整理・統合しながら学習してください。				

分野						開講時期		単位(時間)	
専門基礎分野						1 年次 後期		1 単位 30時間	
科目名						科目種類		担当教員	
看護病態論Ⅲ						講義		外部講師	
授業の目的および概要									
人が「看護」を必要とする状態となるのは、多くの場合「疾患」への罹患からである。疾患をもたらしている原因や治療は生理的過程に作用を及ぼし、しばしば患者の生命・生活にマイナスな影響をもたらす。看護師は、患者の身体で起こっている生理的過程やその障害など様々な現象について理解し、看護を実践していく必要がある。 本講義では、栄養の摂取・吸収機能の障害が起こった場合に、その患者がいかなる状態に置かれるかを理解し、疾患・症状に対する治療、病態生理、検査、看護を学びます。また、治療によって機能が失われた場合の看護についても学習することが目的です。									
到達目標									
1. 消化吸収機能障害を起こす、消化器疾患の病態生理を理解し述べられる 2. 消化器系疾患を持つ人の身体的アセスメントができる基礎的知識を習得し、検査・治療の方法が述べられる 3. 排泄機能障害を起こす、腎・泌尿器疾患の病態生理が述べられる 4. 腎・泌尿器疾患を持つ人の身体的アセスメントができる基礎的知識を習得し、検査・治療の方法が述べられる									
この授業が目的としている DP や関連する科目									
DP との関連性						関連する科目			
①	②	③	④	⑤	⑥	解剖生理学Ⅰ・Ⅱ、看護形態機能学Ⅰ・Ⅱ			
	◎	◎		◎					
教科書・参考図書									
専門分野 成人看護学【5】 消化器 医学書院									
専門分野 成人看護学【8】 腎・泌尿器 医学書院									
授業計画	授業内容					担当/ 講義方法	授業外学習		
	主題(単元)	内容							
第1回	授業ガイダンス 消化器総論	・授業の概要や目標、授業の進め方について説明、担当講師や評価について説明 ・消化器(食道、胃、小腸、大腸)解剖、生理 ・症状とその病態生理				専任教員 外部講師	事前：シラバスの内容を事前に確認する 消化器の解剖生理を復習してから臨む 事後：講義の内容を復習する		
第2回	食道疾患	・胃食道逆流症、食道アカラシア、食道がんの概要、検査、診断、治療				外部講師	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：講義の内容を復習する		
第3回	胃・十二指腸疾患	・急性胃炎、慢性胃炎、胃・十二指腸潰瘍、胃がんの概要、検査、診断、治療				外部講師	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：講義の内容を復習する		
第4回	腸および腹膜疾患	・過敏性腸症候群、潰瘍性大腸炎、クローン病、大腸がん				外部講師	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：講義の内容を復習する		
第5回	肝臓・胆道系・膵臓疾患	・肝臓・胆道系・膵臓の構造と機能 ・症状とその病態生理				外部講師	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：講義の内容を復習する		
第6回	肝臓疾患	・急性肝炎、慢性肝炎、肝硬変、肝臓がんの概要、検査、診断、治療				外部講師	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：講義の内容を復習する		
第7回	胆嚢疾患	・急性胆嚢炎、胆石症、胆嚢がん、胆嚢ポリープの概要、検査、診断、治療				外部講師	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：講義の内容を復習する		

第8回	膵臓疾患	急性膵炎、慢性膵炎、膵がんの概要、検査、診断、治療	外部講師	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：講義の内容を復習する
第9回	上部消化管の手術	- 胃がん手術の実際 - 看護師の役割の理解	外部講師	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：講義の内容を復習する
第10回	下部消化管の手術	- 大腸がん手術の実際 ▶ 術後合併症について	外部講師	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：講義の内容を復習する
第11回	肝胆膵の手術、乳がん	- 肝臓、胆嚢、膵臓の手術の実際 - 乳がんの診断、治療について	外部講師	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：講義の内容を復習する
第12回	腎臓	- 腎臓の機能と構造 - 症状とその病態生理 - 浮腫、脱水、循環器系の異常	外部講師	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：講義の内容を復習する
第13回	腎臓疾患	腎不全、ネフローゼ症候群の概要、検査、診断、治療	外部講師	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：講義の内容を復習する
第14回	泌尿器疾患	前立腺肥大症、前立腺癌、尿路結石症の概要、検査、診断、治療	外部講師	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：講義の内容を復習する
第15回	筆記試験	まとめ	専任教員	
評価方法				
筆記試験：100%（消化器30% 肝胆膵30% 外科20% 腎臓内科10% 泌尿器10%）				
授業を受けるにあたっての留意点など				
単元の予習、看護形態機能学を復習してください。 講師が複数となるため、持参する教科書に注意しましょう。				

分野						開講時期		単位(時間)	
専門基礎分野						1 年次 後期		1 単位 30 時間	
科目名						科目種類		担当教員	
看護病態論Ⅳ						講義		外部講師	
授業の目的および概要									
人が「看護」を必要とする状態となるのは、多くの場合「疾患」への罹患からである。疾患をもたらしている原因や治療は生理的過程に作用を及ぼし、しばしば患者の生命・生活にマイナスな影響をもたらす。看護師は、患者の身体で起こっている生理的過程やその障害など様々な現象について理解し、看護を実践していく必要がある。 本講義では、運動器に何らかの障害が起こった場合に、その患者がいかなる状態に置かれるかを理解し、疾患・症状に対する治療・検査、看護を学びます。また、脳・神経・筋疾患の疾患・症状に対する治療・検査、看護を学ぶことを目的とします。									
到達目標									
1. 運動機能の障害を起こす代表的な疾患の病態生理を理解し述べることができる 2. 脳・神経・筋疾患の障害を起こす代表的な疾患の病態生理を理解し述べることができる 3. それぞれの疾患に対する治療・検査・看護について、疾患と関連させ説明することができる									
この授業が目的としている DP や関連する科目									
DP との関連性						関連する科目			
①	②	③	④	⑤	⑥	看護形態機能学Ⅰ、看護形態機能学Ⅱ			
	◎	◎		◎					
教科書・参考図書									
専門分野 成人看護学【7】 脳・神経 医学書院 専門分野 成人看護学【10】 運動器 医学書院									
授業計画	授業内容					担当/ 講義方法	授業外学習		
	主題(単元)		内容						
第1回	授業ガイダンス 運動器疾患概論		・授業の概要と目標、授業の進め方について、担当講師や評価について(専任教員が10分間で説明する) ・運動器疾患の診断、治療について			専任教員 外部講師	事前：シラバスの内容を事前に確認する 該当ページを事前に読む 事後：復習を行う		
第2回	外傷性疾患		・骨折、脱臼、捻挫、神経の損傷について			外部講師	事前：該当ページを事前に読む 事後：復習を行う		
第3回	非外傷性疾患①		・先天性疾患、骨・関節の炎症性、変性疾患について			外部講師	事前：該当ページを事前に読む 事後：復習を行う		
第4回	非外傷性疾患②		・骨腫瘍および軟部腫瘍について ・代謝性骨疾患			外部講師	事前：該当ページを事前に読む 事後：復習を行う		
第5回	腰部の疾患		・腰部脊柱管狭窄症、椎間板ヘルニアについて ・脊髓造影、椎間板造影			外部講師	事前：該当ページを事前に読む 事後：復習を行う		
第6回	主な検査と治療・処置		・保存療法、理学療法と作業療法、手術療法について ・関節可動域 (ROM) 検査 ・徒手筋力テスト (MMT)			外部講師	事前：該当ページを事前に読む 事後：復習を行う		
第7回	脳・神経疾患概論		・神経疾患の診断、神経難病について			外部講師	事前：該当ページを事前に読む 事後：復習を行う		
第8回	脳疾患		・脳血管障害、脳腫瘍、頭部外傷、脳脊髄液の異常について			外部講師	事前：該当ページを事前に読む 事後：復習を行う		

第9回	脊髄疾患 末梢神経障害	・脊髄血管障害、脊髄炎、末梢神経障害、筋疾患について	外部講師	事前：該当ページを事前に読む 事後：復習を行う
第10回	筋疾患・神経 筋接合部疾患	・筋ジストロフィー、多発性筋炎・皮膚筋炎、重症筋無力症などについて	外部講師	事前：該当ページを事前に読む 事後：復習を行う
第11回	脱髄・変性疾患	・脱髄疾患、脳・神経の変性疾患について	外部講師	事前：該当ページを事前に読む 事後：復習を行う
第12回	脳・神経系の 感染症	・脳炎、髄膜炎、脳腫瘍、その他の神経感染症について	外部講師	事前：該当ページを事前に読む 事後：復習を行う
第13回	中毒・てんかん・認知症	・アルコール中毒、一酸化炭素中毒、薬物中毒、おもなてんかんの発作型、認知症	外部講師	事前：該当ページを事前に読む 事後：復習を行う
第14回	主な検査と 治療・処置	・画像診断、脳脊髄液検査・生検、外科的治療法、内科的治療法	外部講師	事前：配布資料を事前に読んでおく
第15回	筆記試験	・まとめ	専任教員	
評価方法				
筆記試験：100%（運動器40% 脳・神経60%）				
授業を受けるにあたっての留意点など				
授業開始前には必ず配布資料の確認を行い、授業に臨んでください。 看護形態機能学Ⅱなどを活用し、本講義の整理・統合しながら学習してください。				

分野						開講時期		単位(時間)	
専門基礎分野						1 年次 後期		1 単位 15 時間	
科目名						科目種類		担当教員	
看護病態論Ⅴ						講義		外部講師	
授業の目的および概要									
人が「看護」を必要とする状態となるのは、多くの場合「疾患」への罹患からである。疾患をもたらしている原因や治療は生理的過程に作用を及ぼし、しばしば患者の生命・生活にマイナスな影響をもたらす。看護師は、患者の身体で起こっている生理的過程やその障害など様々な現象について理解し、看護を実践していく必要がある。 ここでは、感覚機能や口腔内の障害を起こす代表的な疾患の病態生理、検査、治療について学習し、看護実践に活かすための知識を身につけます。また、それぞれの疾患について必要な看護援助を理解することを目的とします。									
到達目標									
1. 耳鼻科に多い疾患を学び、疾患がもたらす影響と必要な看護について述べることができる 2. 眼科に多い疾患を学び、疾患がもたらす影響と必要な看護について述べることができる 3. 皮膚科に多い疾患を学び、疾患がもたらす影響と必要な看護について述べることができる 4. 口腔内の衛生と健康の関連について学び、必要な看護について述べることができる									
この授業が目的としている DP や関連する科目									
DP との関連性						関連する科目			
①	②	③	④	⑤	⑥	生活行動からみるからだ、解剖生理Ⅰ～Ⅲ			
	◎	◎		◎					
教科書・参考図書									
専門分野 成人看護学【12】 皮膚 医学書院 専門分野 成人看護学【13】 眼 医学書院 専門分野 成人看護学【14】 耳鼻咽喉 医学書院 専門分野 成人看護学【15】 歯・口腔 医学書院									
授業計画	授業内容					担当/ 講義方法	授業外学習		
	主題(単元)	内容							
第1回	耳鼻科疾患①	・授業の概要と目標、授業の進め方について、担当講師や評価について(専任教員が10分間で説明する) ・メニエール病 ・副鼻腔炎 ・突発性難聴 ・それぞれの病態生理と治療				専任教員 外部講師	事前：シラバスの内容を読む 耳鼻咽喉の解剖生理について復習してから臨む		
第2回	耳鼻科疾患②	・鼓膜形成術の適応と治療について ・耳鼻科に多い検査・処置と看護師の役割				外部講師	事後：耳鼻科に多い看護援助をまとめる		
第3回	眼科疾患①	・眼の仕組み ・眼科で受ける主な検査(視力検査、眼圧検査、視野検査、眼底検査など)と看護師の役割				外部講師	事前：眼の構造と働きについて予習して臨む		
第4回	眼科疾患②	・白内障 ・緑内障 ・網膜症				外部講師	事後：眼科に多い看護援助をまとめる		
第5回	皮膚科疾患①	・表在性皮膚疾患 ・感染症				外部講師	事前：皮膚の構造と働きについて復習してから臨む		
第6回	皮膚科疾患②	・スキンケア ・皮膚科に多い検査、処置と看護師の役割				外部講師	事後：皮膚科に多い看護援助をまとめる		
第7回	口腔内疾患	・歯の衛生と病気の関係 ・口腔症状のある患者の看護				外部講師	事前：口腔内の構造を予習してから臨む		
第8回	筆記試験	・まとめ				専任教員			
評価方法									
筆記試験：100% (耳鼻科30% 眼科30% 皮膚科30% 歯科10%)									
授業を受けるにあたっての留意点など									
複数の分野があり、実習では経験する事例が少ない領域でもあります。 事前・事後学習をしっかりと行い、分からないことは積極的に質問するなどして理解を深めましょう。									

分野						開講時期		単位(時間)	
専門基礎分野						2年次 前期		1単位 30時間	
科目名						科目種類		担当教員	
看護病態論Ⅵ						講義		外部講師	
授業の目的および概要									
人が「看護」を必要とする状態となるのは、多くの場合「疾患」への罹患からです。疾患をもたらしている原因は、身体の生理的過程に複雑な作用を及ぼし、しばしば患者の生命・生活にマイナスの影響をもたらします。治療もまた生理的過程に作用を及ぼします。看護はそうした生命・生活への影響を最小限にするためになされ、そこには根拠が必要となります。そのために看護師は、患者の身体で起こっている生理的過程やその障害などの様々な現象について理解する必要があります。 ここでは、精神に何らかの障害が起こった場合に、その対象がどのような状態に置かれるかを理解し、疾患・症状に対する治療・検査、看護を学ぶことを目的にしています。また、成長・発達段階の途中にある対象によくみられる疾患と症状、検査・処置、看護についても学ぶことを目的とします。									
到達目標									
1. 精神疾患・障害を起こす代表的な疾患の病態生理を理解し説明できる 2. 小児期にみられる代表的な疾患の病態生理を理解し説明できる 3. それぞれの疾患や症状に対する治療、検査・処置について、疾患と関連させて説明できる									
この授業が目的としているDPや関連する科目									
DPとの関連性						関連する科目			
①	②	③	④	⑤	⑥	こころの健康、解剖生理学Ⅰ～Ⅲ、看護形態機能学Ⅰ・Ⅱ、病気の発生とメカニズム、看護病態論Ⅰ～Ⅴ、臨床検査、臨床薬理学、治療を支える援助技術、精神看護学入門、小児看護学入門			
	◎								
教科書・参考図書									
専門分野 精神看護学【1】 精神看護の基礎 医学書院									
専門分野 小児看護学【2】 小児臨床看護各論 医学書院									
授業計画	授業内容					担当/ 講義方法	授業外学習		
	主題(単元)	内容							
第1回	授業ガイダンス 精神の病気・障害をもつということ 精神障害をもつ人の抱える症状と診断のための検査	・授業の概要と目標、授業の進め方について説明、担当講師や評価について説明 ・こころを病むとは ・精神障害と差別 ▶スティグマ、障害者差別の解消、リカバリー概念 ・精神障害を持つ人の抱える症状と診断のための検査 ▶診察、一般検査・画像検査、心理検査				専任教員 外部講師	事前：シラバスの内容を事前に確認する 事後：講義を受け自分の考えていた生活と照らし合わせ本日の学習をまとめる		
第2回	主な精神疾患/障害の特徴①	・統合失調スペクトラム障害 ▶病態、症状、検査、治療				外部講師	事前：教科書の該当する範囲を読む 事後：講義内容を復習する		
第3回	主な精神疾患/障害の特徴②	・双極性障害および抑うつ障害群 ▶病態、症状、検査、治療				外部講師	事前：教科書の該当する範囲を読む 事後：講義内容を復習する		
第4回	主な精神疾患/障害の特徴③	・不安症群/不安障害群 ・ストレス因性関連症候群 ・解離症群/解離性障害群 ▶病態、症状、検査、治療				外部講師	事前：教科書の該当する範囲を読む 事後：講義内容を復習する		
第5回	主な精神疾患/障害④	・神経認知障害群 ▶病態、症状、検査、治療				外部講師	事前：教科書の該当する範囲を読む 事後：講義内容を復習する		
第6回	主な精神疾患/障害⑤	・神経発達症群/神経発達障害群 ▶病態、症状、検査、治療				外部講師	事前：教科書の該当する範囲を読む 事後：講義内容を復習する		

第7回	主な精神疾患/依存	・依存症 ・パーソナリティ障害群 ▶ 病態、症状、検査、治療	外部講師	事前：教科書の該当する範囲を読む 事後：講義内容を復習する
第8回	小児①循環器系	・先天性心疾患 ▶ 心房中隔欠損症、心室中隔欠損症、ファロー四徴症、動脈管開存症 ・後天性心疾患 ・川崎病 ▶ 乳幼児突然死症候群	外部講師	事前：教科書の該当する範囲を読む 事後：講義内容を復習する
第9回	小児②消化器系	・胃・十二指腸の疾患 ▶ 肥厚性幽門狭窄症 ・腸の疾患 ▶ 腸重責症、ヒルシュスプルング病、鎖肛、乳児下痢症 ・肝・胆道の疾患 ▶ 先天性胆道閉鎖症	外部講師	事前：教科書の該当する範囲を読む 事後：講義内容を復習する
第10回	小児②内分泌アレルギー疾患	・内分泌疾患 ▶ 糖尿病 ・アレルギー疾患 ▶ 食物アレルギー、気管支喘息	外部講師	事前：教科書の該当する範囲を読む 事後：講義内容を復習する
第11回	小児③神経・筋疾患	・発作性疾患 ▶ てんかん、熱性けいれん ・慢性疾患 ▶ 脳性麻痺 ・外科治療適応の疾患 ▶ 二分脊椎	外部講師	事前：教科書の該当する範囲を読む 事後：講義内容を復習する
第12回	小児の④精神疾患	・神経発達症群 ▶ 自閉症スペクトラム障害、注意欠陥多動性障害、限局性学習障害 ・不登校	外部講師	事前：教科書の該当する範囲を読む 事後：講義内容を復習する
第13回	小児⑤腎・泌尿器疾患 先天異常の代表疾患	・泌尿器疾患 ▶ ネフローゼ症候群 ・染色体異常 ▶ ダウン症候群(21トリソミー)、18トリソミー、13トリソミー、ターナー症候群、クラインフェルター症候群	外部講師	事前：教科書の該当する範囲を読む 事後：講義内容を復習する
第14回	小児⑥感染症	・細菌感染症 ▶ ワクチンで予防できる感染症、溶連菌感染症 ・ウイルス感染症 ▶ ワクチンで予防できる感染症、そのほかのウイルス感染症	外部講師	事前：教科書の該当する範囲を読む 事後：講義内容を復習する
第15回	筆記試験	・まとめ	専任教員	
評価方法				
筆記試験：100%（精神50%、小児50%）				
授業を受けるにあたっての留意点など				
事前に予習として調べたものについて持参してください 授業で使用する物品を忘れずに持参してください				

分野						開講時期		単位(時間)	
専門基礎分野						1 年次 後期		1 単位 15 時間	
科目名						科目種類		担当教員	
微生物と病気						講義		外部講師	
授業の目的および概要									
「感染症」とは、病原微生物の宿主(ヒト)での増殖に伴い、炎症反応と免疫反応を生じた状態をいいます。この病原微生物による感染は全てなくすることはできませんが、症状を軽減させる、流行を拡大させないよう予防することは可能です。そのためには、「病原体」を知り、「病原体と宿主(ヒト)の関係」を理解することが必要です。 ここでは、病原微生物の種類と特徴を学び、それらの微生物が引き起こす感染症の概要を理解していきます。また、免疫系のしくみと生体防御均衡を理解した上で、感染症の治療および感染予防のための基礎的知識を習得することを目的とします。									
到達目標									
1. 微視物の形態学的・生物学的・生理学的な特徴と分類が述べられる									
2. 病原微生物の侵入と増殖により引き起こされる感染症の病態について説明できる									
この授業が目的としている DP や関連する科目									
DP との関連性						関連する科目			
①	②	③	④	⑤	⑥	病気の発生とメカニズム			
		◎		◎					
教科書・参考図書									
専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進【4】 微生物 医学書院									
授業計画	授業内容					担当/ 講義方法	授業外学習		
	主題(単元)	内容							
第1回	微生物学総論	・授業の概要や目標、授業の進め方について説明、担当講師や評価について説明 ・微生物と微生物学 ・微生物の種類と特徴 ・人と病原体の関わり				専任教員 外部講師	事前：シラバスを読んでおく		
第2回	主な病原微生物：細菌	・細菌の形態と特徴 ・細菌の分類				外部講師	事後：細菌の特徴について復習する		
第3回	主な病原微生物：真菌・原虫・ウイルス	・真菌の形態と特徴、分類 ・原虫の特徴と基本構造、種類 ・ウイルスの特徴と基本構造、分類				外部講師	事後：真菌・原虫・ウイルスの特徴について復習する		
第4回	感染と生体の防御	・微生物感染の機構 ・細菌感染の機構 ・真菌感染の機構 ・原虫感染の機構 ・ウイルス感染の機構				外部講師	事前：テキストを読んでくる		
第5回	感染に対する生体防御機構	・免疫 ・感染防御機構 ・感染の徴候と症状 ・感染経路からみた感染症				外部講師	事後：復習をする		
第6回	感染症の検査と診断	・病原体を検出する方法 ・生体の反応から検出する方法				外部講師	事後：復習をする		
第7回	感染症の治療	・化学療法の基礎 ・各種の化学療法薬				外部講師	事後：復習をする		
第8回	筆記試験	・まとめ				専任教員			
評価方法									
筆記試験 100%									
授業を受けるにあたっての留意点など									
予習・復習をして講義に臨んでください。									

分野						開講時期		単位(時間)	
専門基礎分野						2 年次 前期		1 単位 15 時間	
科目名						科目種類		担当教員	
臨床検査						講義		外部講師	
授業の目的および概要									
疾病や障害の程度を知る、治療を決定するためには、疾患の原因や体の構造と機能の変化を物理化学的手段によって調べた客観的データが必要とあります。臨床検査において、看護師は検査が適切に行われるよう患者を支援する、適切に検体を取り扱う、検査時介助を行うなどの役割があります。その役割を果たすには臨床検査の基本的な知識が必要となります。 ここでは、診療場面で一般的に行われる検査の役割および診断・治療との関係性を学びます。また、各種検査の原理と意義および進め方、検体の取り扱いについての基礎的な知識を習得することを目的としています。									
到達目標									
1. 臨床検査の役割と意義が述べられる 2. 疾病診断に用いられる基本的な検査法が述べられる 3. 適切な検体の取り扱い方法を説明できる									
この授業が目的としている DP や関連する科目									
DP との関連性						関連する科目			
①	②	③	④	⑤	⑥	微生物と病気、総合医療論、検査・処置検査技術			
		◎		◎					
教科書・参考図書									
別巻 臨床検査 医学書院									
授業計画	授業内容					担当/ 講義方法	授業外学習		
	主題(単元)	内容							
第1回	授業ガイダンス 臨床検査とその役割	● 授業の概要と目標、授業の進め方について説明、担当講師や評価について説明 ● 臨床検査の役割と意義 ● 臨床検査の種類 ● 臨床検査の場面と目的				専任教員 外部講師	事前：シラバスを読んでくる		
第2回	臨床検査の流れと看護師の役割	● 臨床検査の流れ ● 検査を受ける患者への説明と注意 ● 検査に伴う危険とその防止				外部講師	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：講義内容の復習をする		
第3回	一般検査 生体検査	● 尿・便検査 ● 生理機能検査 ● 画像検査				外部講師	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：講義内容の復習をする		
第4回	血液学的検査	● 血球検査 ● 出血・凝固検査				外部講師	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：講義内容の復習をする		
第5回	化学検査	● 血清 ● 糖代謝、腎機能、血液ガスなど				外部講師	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：講義内容の復習をする		
第6回	免疫・血清学、内分泌学的検査	● 化学検査 ● 炎症マーカー、自己抗体、腫瘍マーカーなど ● 輸血に関する検査				外部講師	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：講義内容の復習をする		
第7回	微生物学的・病理学的検査	● 感染症の診断と検査 ● 各種病原体と検査 ● 細胞診 ● 病理組織検査				外部講師	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：講義内容の復習をする		
第8回	筆記試験	● まとめ				専任教員			
評価方法									
筆記試験：100%									
授業を受けるにあたっての留意点など									
予習・復習をして講義に臨んでください。									

分野						開講時期		単位(時間)	
専門基礎分野						2年次 前期		1単位 30時間	
科目名						科目種類		担当教員	
臨床薬理学						講義		外部講師	
授業の目的および概要									
在宅医療の推進など社会情勢の変化により看護師による診療補助行為の範囲が拡大される傾向にありこれまで以上、薬物治療における看護師の役割が期待されています。 ここでは、薬物および薬剤を使用する人との関係について理解し疾病及び病態の知識を基盤に、薬物の特徴、作用機序、薬物の主作用・副作用を理解し臨床における薬物の基本を理解することを目的とします。さらに薬物療法の目的と薬物が生体に及ぼす影響と薬物の管理についても学びます。									
到達目標									
1. 薬の作用、副作用、作用のしくみ、体内動態について述べられる 2. 医薬品の安全な使用(効果的な活用と薬害の防止)と管理の重要性について説明できる 3. 主な疾患の治療薬についての作用・副作用、投与や看護での注意点が述べられる									
この授業が目的としているDPや関連する科目									
DPとの関連性						関連する科目			
①	②	③	④	⑤	⑥	病気の発生とメカニズム、看護病態論Ⅰ～Ⅵ、治療を支える援助技術			
	◎	◎							
教科書・参考図書									
専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進【3】 薬理学 医学書院 別巻 臨床薬理学 医学書院									
授業計画	授業内容					担当/ 講義方法	授業外学習		
	主題(単元)	内容							
第1回	授業ガイダンス 薬理学の基礎知識①	・授業の概要と目標、授業の進め方について説明、担当講師や評価について説明 ・薬理学とは ・薬に関する基礎知識				専任教員 外部講師	事前：シラバスの内容を事前に確認する。教科書の該当範囲を読む。 事後：講義内容の復習をする。		
第2回	薬理学の基礎知識②	・生体機能と薬 ▶薬の体内運命と薬効 ▶生体の機能調節と薬物 ▶薬物の相互作用 ▶小児・妊婦・授乳婦・高齢者の薬物療法				外部講師	事前：教科書の該当範囲を読む。 事後：講義内容の復習をする。		
第3回	薬物療法の実際①	・末梢神経系作用薬 ▶自律神経系作用薬 ▶筋弛緩薬 ▶局所麻酔薬				外部講師	事前：教科書の該当範囲を読む。 事後：講義内容の復習をする。		
第4回	薬物療法の実際②	・中枢神経系作用薬① ▶中枢神経系作用薬とは ▶全身麻酔薬 ▶催眠薬 ▶麻薬および類似薬				外部講師	事前：教科書の該当範囲を読む。 事後：講義内容の復習をする。		
第5回	薬物療法の実際③	・中枢神経系作用薬② ▶抗てんかん薬 ▶パーキンソン症候群治療薬 ▶抗認知症薬、脳循環・代謝改善薬 ▶向精神薬 ▶中枢神経興奮薬 ▶頭痛治療薬				外部講師	事前：教科書の該当範囲を読む。 事後：講義内容の復習をする。		
第6回	薬物療法の実際④	・心・血管系作用薬 ▶循環障害と疾患 ▶心・血管系作用薬とは ▶降圧薬 ▶抗不整脈薬 ▶抗狭心症薬 ▶強心薬 ▶利尿薬 ▶末梢血管拡張薬				外部講師	事前：教科書の該当範囲を読む。 事後：講義内容の復習をする。		

第7回	薬物療法の 実際⑤	- 血液作用薬(血液製剤を含む) ▶造血薬 ▶抗血栓薬 ▶止血薬 - 血液製剤 - 呼吸器系作用薬 ▶気管支拡張薬 ▶気管支喘息治療薬 ▶呼吸促進薬 ▶鎮咳薬 ▶去痰薬	外部講師	事前：教科書の該当範囲を読む。 事後：講義内容の復習をする。
第8回	薬物療法の 実際⑥	- 消化器系作用薬 ▶消化性潰瘍治療薬 ▶健胃消化薬 ▶胃腸機能調整薬 ▶腸疾患に作用する薬 ▶肝疾患・胆道疾患・膵臓疾患治療薬 ▶制吐薬・催吐薬	外部講師	事前：教科書の該当範囲を読む。 事後：講義内容の復習をする。
第9回	薬物療法の 実際⑦	- 内分泌・代謝系作用薬 ▶女性ホルモン剤 ▶男性ホルモン剤 ▶その他のホルモン剤 ▶甲状腺疾患治療薬 ▶骨・カルシウム代謝薬 ▶糖尿病治療薬 ▶脂質異常症治療薬 ▶痛風・高尿酸血症治療薬	外部講師	事前：教科書の該当範囲を読む。 事後：講義内容の復習をする。
第10回	薬物療法の 実際⑧	- 抗感染症薬 ▶感染症・化学療法の基礎知識 ▶抗菌化学療法の実際 ▶抗真菌薬 ▶抗ウイルス薬 ▶抗寄生虫薬 ▶予防接種用薬	外部講師	事前：教科書の該当範囲を読む。 事後：講義内容の復習をする。
第11回	薬物療法の 実際⑨	- 抗腫瘍薬(抗がん剤) ▶腫瘍と抗腫瘍薬 ▶主な抗腫瘍薬	外部講師	事前：教科書の該当範囲を読む。 事後：講義内容の復習をする。
第12回	薬物療法の 実際⑩	- 抗炎症薬・解熱鎮痛薬 - 抗アレルギー薬・免疫治療剤 ▶免疫と免疫抑制剤、抗アレルギー薬 ▶抗リウマチ薬	外部講師	事前：教科書の該当範囲を読む。 事後：講義内容の復習をする。
第13回	薬物療法の 実際⑪	- 救急時の薬物 ▶救急蘇生時使用の薬物 ▶症状急変時(容態急変時)使用の薬物 - 漢方薬 ▶漢方薬と西洋薬の違い ▶EBMに基づく漢方医療 ▶漢方薬の臨床	外部講師	事前：教科書の該当範囲を読む。 事後：講義内容の復習をする。
第14回	薬物療法の 実際⑫	- その他の薬剤 ▶ビタミン製剤 ▶輸液・栄養製剤 ▶皮膚疾患治療薬 ▶点眼薬 ▶放射性診断薬 ▶毒物と解毒薬 ▶消毒薬	外部講師	事前：教科書の該当範囲を読む。 事後：講義内容の復習をする。
第15回	筆記試験	・まとめ	専任教員	
評価方法				
筆記試験：100%				
授業を受けるにあたっての留意点など				
臨床でこの科目で学んだことが活かせるように予習復習をして講義に臨んでください。 事前事後学習は各自でノートにまとめてください。				

分野						開講時期		単位(時間)	
専門基礎分野						1 年次 前期		1 単位 15 時間	
科目名						科目種類		担当教員	
チーム医療						講義		専任教員 外部講師	
授業の目的および概要									
日本の保健医療福祉制度における専門職の種類と役割を理解し、チーム医療の理念と実際について学びます。また、チーム医療における看護職の役割と責任、チーム医療の効果について考えます。 ここではチーム医療の構成員として自身が積極的に医療に参画し、より安全で質の高い医療を実践できるように、医療の流れ、医療チームの構成員とその機能・役割を理解し、チーム医療に関する基本的知識を修得することを目的とします。									
到達目標									
1. 保健医療福祉制度における専門職の役割を説明できる 2. チーム医療における看護職の役割と責任について述べられる 3. 各専門職種の役割、機能および病院内医療チームの実際を検討できる 4. チーム医療、多職種連携において大事なことは何かを述べられる									
この授業が目的としている DP や関連する科目									
DP との関連性						関連する科目			
①	②	③	④	⑤	⑥	看護の本質、共通看護技術			
○			◎						
教科書・参考図書									
教科書なし									
授業計画		授業内容				担当/ 講義方法		授業外学習	
		主題(単元)	内容						
第1回		授業ガイダンス チーム医療について	・授業の概要と目標、授業の進め方の説明、担当講師や評価について説明 ・医療行政における「チーム医療」の考え方 ▶ チームとグループの違い			専任教員		事前：シラバスの内容を事前に確認する 事後：講義を受け内容を復習する	
第2回		看護師の役割の理解	・看護師の機能と役割 ・医療チーム内での位置づけ、多職種との関係について			外部講師		事後：講義を受け内容を復習する	
第3回		専門職種の理解①	・理学療法士、作業療法士、言語聴覚士の機能と役割 ・医療チーム内での位置づけ、看護師との関係について			外部講師		事後：講義を受け内容を復習する	
第4回		専門職種の理解②	・社会福祉士の機能と役割 ・医療チーム内での位置づけ、看護師との関係について			外部講師		事後：講義を受け内容を復習する	
第5回		専門職種の理解③	・管理栄養士の機能と役割 ・医療チーム内での位置づけ、看護師との関係について			外部講師		事後：講義を受け内容を復習する	
第6回		専門職種の理解④	・薬剤師の機能と役割 ・医療チーム内での位置づけ、看護師との関係について			外部講師		事後：講義を受け内容を復習する	
第7回		事例検討 発表 まとめ	・事例提示 ▶ 当事者の視点、多職種連携の視点で検討し、発表する内容を決定 ・発表			専任教員 GW		事後：発表内容をまとめ、自分の言葉で整理する	
第8回		筆記試験				専任教員			
評価方法									
筆記試験：100%									
授業を受けるにあたっての留意点など									
この科目は、この先に学ぶ多くの科目に繋がっています。そして、看護師になった際に必要となる知識です。臨床で活躍している各専門職の貴重な話を聞ける機会ですので、積極的な姿勢で授業に望みましょう。そしてグループワークを通してチーム医療の理解を深めていきましょう。									

分野						開講時期		単位(時間)	
専門基礎分野						1 年次 後期		1 単位 30 時間	
科目名						科目種類		担当教員	
総合医療論						講義		外部講師 専任教員	
授業の目的および概要									
国民の求める医療や期待される医療人像是、社会のあり方や人々の意識を反映し時代とともに変遷していきます。医療者は常に対象者に寄り添い、健康に生活できるよう支援していく責任があります。その責任を果たすには、十分な知識や技術が必要となります。 ここでは医療・医学の歴史の変遷を通し、医療がどのように発展してきたのか理解していきます。そして患者に提供される治療にはどのようなものがあるかを知り、看護活動の根拠となる知識を身に付けることを目的としています。									
到達目標									
1. 医療者としての心構えを述べられる 2. 医学・医療の変遷からそれぞれの治療について説明できる									
この授業が目的としている DP や関連する科目									
DP との関連性						関連する科目			
①	②	③	④	⑤	⑥	チーム医療、看護の本質			
	◎	◎		◎					
教科書・参考図書									
専門基礎分野 健康支援と社会保障制度【1】 医療概論 医学書院 別巻 総合医療論 医学書院 専門基礎分野 人体の構造と機能【3】 栄養学 医学書院 別巻 栄養食事療法 医学書院 別巻 臨床放射線医学 医学書院 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 別巻 リハビリテーション看護 医学書院 専門分野 精神看護学【2】 精神看護の基礎 医学書院 専門分野 成人看護学【8】 腎・泌尿器科 医学書院 専門分野 成人看護学【9】 女性生殖器 医学書院									
授業計画	授業内容					担当/ 講義方法	授業外学習		
	主題(単元)	内容							
第1回	授業ガイダンス 医療者としての心構え	・授業の概要と目標、授業の進め方について説明、担当講師や評価について説明 ・医療職につくものとして必要なこと、どんな心構えが必要か				専任教員 GW	事前：シラバスの内容を事前に確認する 事後：医療者としての心構えについてまとめる		
第2回	医療と看護の原点	・いのちについて考える ・健康とは、「病」とは				専任教員	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：講義内容を復習する		
第3回	医学・医療の歴史	・医学、医療の歴史 ・医学はどのように発展してきたか				外部講師	事後：講義内容を復習する		
第4回	私たちの生活と医療	・診療所と病院、薬と安全性、疾病の1次予防と健康増進				外部講師	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：講義内容を復習する		
第5回	食事療法	・食事と食事療法の目的、栄養と疾病の関係、患者と栄養、各種病態と食事療養の基本方針、病院食				外部講師	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：講義内容を復習する		
第6回	運動療法	・運動療法とは、運動療法の種類と特徴 運動処方原則、運動療法の実際				外部講師	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：講義内容を復習する		
第7回	リハビリテーション	・リハビリテーションとは、リハビリテーションの目的、適応、種類と特徴				外部講師	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：講義内容を復習する		

第8回	放射線療法	放射線療法とは、放射線療法の目的と適応、放射線療法の種類と特徴、放射線療法の実際、放射線障害と放射線防護	外部講師	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：講義内容を復習する
第9回	透析療法	- 透析療法とは、透析療法の目的と適応 - 透析療法の種類と特徴、透析療法の実際	外部講師	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：講義内容を復習する
第10回	精神療法	- 個人療法・集団精神療法・家族療法 - 薬物療法・電気けいれん療法 他	外部講師	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：講義内容を復習する
第11回	手術療法①	- 手術療法の目的と意義 - 麻酔の知識	外部講師	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：講義内容を復習する
第12回	手術療法②	- 周手術期管理と術後合併症の管理 - 外科侵襲と生体反応	外部講師	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：講義内容を復習する
第13回	最先端医療①	- 臓器移植 - 人工臓器 - 脳死判定	外部講師	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：講義内容を復習する
第14回	最先端医療②	- 生殖補助医療 - 再生医療	外部講師	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：講義内容を復習する
第15回	筆記試験	まとめ	専任教員	
評価方法				
筆記試験：100%				
授業を受けるにあたっての留意点など				
担当する講義に精通している講師がそれぞれの治療方法について講義を行います。短時間の中で、重要な内容について講義しますのでボリュームがあります。わからない点などについては積極的に質問をして理解を深めていきましょう。				

分野						開講時期		単位(時間)	
専門基礎分野						3 年次 前期		1 単位 30時間	
科目名						科目種類		担当教員	
公衆衛生学						講義		外部講師	
授業の目的および概要									
公衆衛生学とは、疾病を予防し、人々の健康を保持増進させていくために活用される科学的な手法であり、幅の広い学問です。 ここでは、自分自身の健康づくりとともに、家族や地域での総合的な健康づくりを推進できる基礎的能力を身につけます。まず、公衆衛生学の基礎知識を理解し、次に集団における健康問題を把握するための方法となる疫学や保健統計の基礎とそれらの活用方法について学び、更に公衆衛生学の対象が個人ではなく人間集団であることを意識し、地域社会で普通に生活していく人々、あるいは各種機能集団の人々の健康だけでなく社会環境を保持増進するためには自然環境及び社会環境をも整えることの必要性を理解しその理論と方法を学ぶことを目的とします。									
到達目標									
1. 公衆衛生学の基礎知識を述べることができる 2. 疫学の基礎を述べることができる 3. 保健統計の基礎を知り、活用方法について述べることができる 4. 社会環境を整えることの必要性が述べられ、その理論と方法を説明できる									
この授業が目的としている DP や関連する科目									
DP との関連性						関連する科目			
①	②	③	④	⑤	⑥	社会福祉、関係法規、家族看護論、地域をつくる人間関係、健康と社会			
			◎	◎					
教科書・参考図書									
専門基礎分野 健康支援と社会保障制度【2】 公衆衛生 医学書院									
授業計画		授業内容				担当/ 講義方法		授業外学習	
		主題(単元)	内容						
第1回		授業ガイダンス 衛生学・公衆衛生学序論	・授業の概要や目標、授業の進め方について説明、担当講師や評価について説明 ・公衆衛生の基本 ・プライマリヘルスケア ・ヘルスプロモーション ・ポピュレーションアプローチ ・ハイリスクアプローチ			専任教員 外部講師		事前：シラバスを事前に確認する 事後：復習を行う	
第2回		医療・介護の保障制度	・医療保障 他			外部講師		事前：教科書の該当ページを読む 事後：復習を行う	
第3回		地域保健活動	・ヘルスサービスの構造 他			外部講師		事前：教科書の該当ページを読む 事後：復習を行う	
第4回		母子保健 学校保健	・母子保健法と施策 ・母子健康手帳 等 ・がん対策基本法 ・難病法 等 ・学校保健安全法 他			外部講師		事前：教科書の該当ページを読む 事後：復習を行う	
第5回		保健統計	・健康に関する指標に基づく公衆衛生 ▶人口問題 ▶国勢調査 ▶人口静態統計 ▶健康状態と受療状態 ▶平均寿命 ▶健康寿命 ▶有病率、罹患率 他			外部講師		事前：教科書の該当ページを読む 事後：復習を行う	

第6回	疫学	- 疫学的方法に基づく公衆衛生 ▶ 健康被害 ▶ 臨床疫学とエビデンス	外部講師	事前：教科書の該当ページを読む 事後：復習を行う
第7回	公衆衛生における感染症と対策	- 感染症の成立要因 - 感染症の予防 - 予防接種 - 感染症法 他	外部講師	事前：教科書の該当ページを読む 事後：復習を行う
第8回	主要な感染症と動向	- 結核 - HIV、AIDS - インフルエンザ 他	外部講師	事前：教科書の該当ページを読む 事後：復習を行う
第9回	主な疾病の予防	生活習慣病の予防 等	外部講師	事前：教科書の該当ページを読む 事後：復習を行う
第10回	環境保健	- 地球環境 - 食品および家庭用品 - ごみ、廃棄物 - 住環境	外部講師	事前：教科書の該当ページを読む 事後：復習を行う
第11回	地域保健	- 地域保健法と施策 - 健康日本21 - 健康増進法	外部講師	事前：教科書の該当ページを読む 事後：復習を行う
第12回	産業保健	- 労働環境 - 職業病 - メンタルヘルス、ハラスメント 等	外部講師	事前：教科書の該当ページを読む 事後：復習を行う
第13回	精神保健	こころの健康対策、自殺対策 等	外部講師	事前：教科書の該当ページを読む 事後：復習を行う
第14回	国際保健	- 国際保健とは 国際保健寡動とは - 国際協力のしくみ - WHOの役割・活動 - 国際保健における日本の役割	外部講師	事前：教科書の該当ページを読む 事後：復習を行う
第15回	筆記試験	まとめ	専任教員	
評価方法				
筆記試験：100%				
授業を受けるにあたっての留意点など				
日々の生活の中で社会ニュースに関心を持つようにする。				

分野						開講時期		単位(時間)	
専門基礎分野						2 年次 前期		1 単位 30時間	
科目名						科目種類		担当教員	
社会福祉						講義		外部講師	
授業の目的および概要									
人口の少子高齢化、生活習慣病の増加に伴い、保健・医療・福祉の領域による地域の支援体制の確立が不可欠となっている中、人間の健康に関わる事項に社会の様々な立場に関わることが期待される看護師にとって、社会保障、社会福祉の制度に関する知識、素養が求められています。 社会保障や社会福祉の目的や機能を理解し保健医療福祉行政、地域医療福祉施策、地域保健医療福祉などの実践方法や社会資源について学び、更には、子ども、障がい者、高齢者などのライフサイクルや対象に応じた諸制度、生活保護、地域福祉、社会保障制度について最近の動向を学び、看護職として必要な福祉制度との連携を担える基礎能力を身につけることを目的とします。									
到達目標									
1. 社会保障制度の基本を知り、述べることができる 2. 社会保険制度の基本を知り、述べることができる 3. 社会福祉に関する法や施策を知り、述べることができる									
この授業が目的としている DP や関連する科目									
DP との関連性						関連する科目			
①	②	③	④	⑤	⑥	暮らしと法、家族看護論			
			◎	◎					
教科書・参考図書									
専門基礎分野 健康支援と社会保障制度【3】 社会保障・社会福祉 医学書院									
授業計画	授業内容					担当/ 講義方法	授業外学習		
	主題(単元)	内容							
第1回	・授業のガイダンス ・教科書まえがきの確認 ・教科書を目次でおう	・自己紹介(入学動機・自分の思う社会福祉とは…) ・授業の概要と目標、授業の進め方について、担当講師や評価について ・生活と社会福祉(第1章) ・社会福祉を支えるいくつかの理念				専任教員 外部講師	事前：シラバスの内容を事前に確認する 事後：講義内容を復習		
第2回	社会 保障の 理念と変遷 (第2章) 社会 保障制 度	・目的・機能 ・日本国憲法第25条 ・社会保障の現状・動向				外部講師	事前：教科書の該当ページを読む 事後：講義内容を復習		
第3回	医 療 保 険 制 度	・被用者保険 ・国民健康保険 ・国民医療費の動向 ・公費医療制度 他				外部講師	事前：教科書の該当ページを読む 事後：講義内容を復習		
第4回	医 療 保 険 制 度	・医療保険の現状と動向				外部講師	事前：教科書の該当ページを読む 事後：講義内容を復習		
第5回	介 護 保 険 制 度	・介護保険制度の成り立ちの背景 ・医療保険から介護保険への流れ				外部講師	事前：教科書の該当ページを読む 事後：講義内容を復習		
第6回	介 護 保 険 制 度	・保険者、被保険者 ・ケアマネジメント ・介護予防 他				外部講師	事前：教科書の該当ページを読む 事後：講義内容を復習		
第7回	所得保障 ・年金制度	・制度の体系 ・給付と費用負担				外部講師	事前：教科書の該当ページを読む 事後：講義内容を復習		

第8回	所得保障 ・その他社会 保険制度	・雇用保険 ・労働者災害補償保険法	外部講師	事前：教科書の該当ページを読む 事後：講義内容を復習
第9回	社会福祉に 関する機関 と機能	・福祉事務所 ・児童相談所 ・社会福祉協議会 ・民生委員 他	外部講師	事前：教科書の該当ページを読む 事後：講義内容を復習
第10回	生活保護に 関する法や 施策	・基本理念と原則 ・扶助の種類と内容	外部講師	事前：教科書の該当ページを読む 事後：講義内容を復習
第11回	障害者(児) に関する福 祉の理解	・障害者福祉のあゆみと概要 ・障害者のとらえ方 ・障害者基本法等法律の理解	外部講師	事前：教科書の該当ページを読む 事後：講義内容を復習
第12回	障害者(児) に関する福 祉の理解	・障害者を取り巻く環境について ・障害者雇用について	外部講師	事前：教科書の該当ページを読む 事後：講義内容を復習
第13回	児童に関す る法や施策 高齢者に関 する法や施 策	・児童虐待防止法 他 ・高齢者虐待防止法 他 ・DV防止法 他	外部講師	事前：教科書の該当ページを読む 事後：講義内容を復習
第14回	授業の振り 返り	・社会福祉実践と医療・看護 ・筆記試験にむけて	外部講師	事後：社会福祉に関する法と施 策を復習
第15回	筆記試験	・まとめ	専任教員	
評価方法				
筆記試験：100%				
授業を受けるにあたっての留意点など				
授業を受けるにあたって予習・復習をして臨んでください。				

分野						開講時期		単位(時間)	
専門基礎分野						3 年次 後期		1 単位 15 時間	
科目名						科目種類		担当教員	
関係法規						講義		外部講師	
授業の目的および概要									
人間社会の秩序を維持するためには規範が必要であり、それは「法」として規定されています。医療に携わる者が職業人としてその任務を十分に果たすためには、保健医療福祉に関する諸制度の概要とそれを規定する諸法令を理解する必要があります。看護者においても人々に質の高い看護の提供をするためには、与えられた職務を正しく遂行する必要があり、その為には看護関係法令の理解が必要となります。 ここでは、まず法規の概念について理解し、看護に携わる者にとって最も重要な保健師助産師看護師法から、医事や衛生、社会保障、労働などの関係法令を学ぶことを目的とします。また、専門職としての職務を遂行するための基本的知識を身につけます。									
到達目標									
1. 法の概念が理解でき、述べられる 2. 看護職に必要な関係法令を理解でき、述べられる									
この授業が目的としている DP や関連する科目									
DP との関連性						関連する科目			
①	②	③	④	⑤	⑥	暮らしと法、公衆衛生学、社会福祉			
			◎	◎					
教科書・参考図書									
専門基礎分野 健康支援と社会保障制度【4】 看護関係法令 医学書院									
授業計画	授業内容					担当/ 講義方法	授業外学習		
	主題(単元)	内容							
第1回	授業ガイダンス 法の概念 看護職に関する法	• 授業の概要や目標、授業の進め方について説明、担当講師や評価について説明(10分程度) • 法の概念 • 看護法 • 保助看法 他				専任教員 外部講師	事前：シラバスを事前に確認する 事後：講義内容を復習する		
第2回	医療や社会福祉関連職に関する法	• 医事法 • 医療法 • 薬剤師法 • 社会福祉士及び介護福祉士法、精神保健福祉士法 他				外部講師	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：講義の内容を復習する		
第3回	保健衛生法	• 共通保健法 • 分野別保健法				外部講師	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：講義の内容を復習する		
第4回	薬務法 依存症対策	• 薬事一般に関する法律 • 麻薬、毒物などの法 • アルコール依存、薬物依存、病的賭博				外部講師	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：講義の内容を復習する		
第5回	社会保険法 福祉法	• 医療・介護の費用保障 • 年金 • 福祉の基盤 • 児童の分野 • 高齢分野 • 障害分野 • 手当				外部講師	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：講義の内容を復習する		
第6回	労働法と社会基盤整備	• 労働法 • 社会基盤整備 ▶(労働基準法) 他				外部講師	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：講義の内容を復習する		
第7回	環境法 サービスの提供体制	• 環境保全の基本法 • 公害防止の法 • 自然保護法 • 医療提供施設 • 救急医療 • 診療記録と情報公開 • 安全管理(セーフティマネジメント)他				外部講師	事前：教科書の該当範囲を読む 事後：講義の内容を復習する		
第8回	筆記試験	• まとめ				専任教員			
評価方法									
筆記試験：100%									
授業を受けるにあたっての留意点など									

分野						開講時期		単位(時間)	
専門基礎分野						1 年次 前期		1 単位 15時間	
科目名						科目種類		担当教員	
こころの健康						講義		外部講師	
授業の目的および概要									
現代社会において、社会的・心理的ストレスにさらされる機会から不適応状態となり、心の不健康状態にある人々が増加しているため、すべての発達段階において人間の心への精神保健的対応が求められます。 ここでは、人々の精神的健康を向上するために精神保健の定義とその領域および、精神活動へ影響を及ぼす様々な環境因子について学びます。そして、身体的のみならず、精神的(こころ)にも健康であることの必要性について理解を深めることを目的とします。									
到達目標									
1. 暮らしの場における心の健康づくりについて説明できる 2. 精神障害をもつ人を守る法・制度が説明できる 3. 発達段階における心の健康について説明できる 4. 現代社会における社会病理現象への対応が述べられる									
この授業が目的としている DP や関連する科目									
DP との関連性						関連する科目			
①	②	③	④	⑤	⑥	心理学、共通看護技術			
◎					◎				
教科書・参考図書									
専門分野 精神看護学【1】 精神看護の基礎 医学書院 別巻 精神保健福祉 医学書院									
授業計画	授業内容					担当/ 講義方法	授業外学習		
	主題(単元)		内容						
第1回	授業ガイダンス こころの健康と精神保健		・授業の概要と目標、授業の進め方について ・精神的健康の定義 ・精神保健とは ▶身体とこころの関係 ▶こころの健康・不健康 ▶こころの健康の維持 ・地域精神保健における第1次予防～第3次予防			専任教員 外部講師	事前：シラバスの内容を事前に確認する 教科書の該当ページを事前に読む 事後：講義内容を復習する		
第2回	精神保健医療福祉の歴史と法		・精神医療の歴史 ・精神保健医療福祉の法制度について			外部講師	事前：該当ページを事前に読む 事後：復習を行う		
第3回	地域精神保健		・入院医療中心から地域生活中心へ ・暮らしの場と精神の健康			外部講師	事前：該当ページを事前に読む 事後：復習を行う		
第4回	精神の発達に関する主要な考え方		・エリクソン ・ボウルビィの愛着理論 ・マズローの欲求 ・ピアジェの認知発達理論			外部講師	事前：該当ページを事前に読む 事後：復習を行う		
第5回	危機状況と精神の健康		・危機の概念 ・危機の予防 ・ストレスコーピング ・精神の健康のためのセルフマネジメント			外部講師	事前：該当ページを事前に読む 事後：復習を行う		
第6回	現代社会と精神の健康①		・DV、ハラスメント、児童虐待、いじめ、不登校、自殺、ひきこもり			外部講師	事前：該当ページを事前に読む 事後：復習を行う		
第7回	現代社会と精神の健康②		・自傷行為、薬物、IT依存、薬物依存、犯罪、非行			外部講師	事前：該当ページを事前に読む 事後：復習を行う		
第8回	筆記試験		・まとめ			専任教員			
評価方法									
筆記試験：100%									
授業を受けるにあたっての留意点など									
授業前に授業範囲について一読してから臨みましょう。 授業中は講師が伝えたいことについて探求心を持ちながら授業を受けるようにし、大事なポイントなどについてマーカ―やメモを取りながら授業を受けてください。 授業が終わった後には寝る前にその日にやった内容について振り返っておいてください。									